

高齢化社会の安全と安心



特定非営利活動法人安全工学会 会長 **藤原 健嗣**
Taketsugu Fujiwara

高齢化社会というと、社会を構成する人口のうち高齢化比率が高くなり、生産性の低下や高齢者の健康維持の負担が増え、経済的に負のスパイラルが進化していく社会のことをいうが、ここでは少し視点を変えて我々が生活している社会環境そのもの高齢化について、人と社会のアナロジーの見方から環境の高齢化した社会の中でいかに安全・安心を確保していくかについて考えてみる。

「人」の状況を表現するのに、「心」「技」「体」という言葉がある。人でいう「体」は、身体能力つまり持続力、瞬発力、復元力（回復力）等にあたるが、これを社会に当てはめると「体」の部分は社会インフラ等、生活の利便性を支えているハードの部分で、防災体制、安全設備等にあたる。

「技」の部分は蓄積のきく、あるいは経験の生きてくるところであり、社会でいうと政治や経済、科学、工学等であり、広がりを持って社会を変えていく地力であろう。あるいは、日本の強味である高度な産業基盤等もこれにあたる。

そして「心」の部分であるが、人では志・知力、気力が挙げられ、知力とは理解力と想像力、気力とは興味や復元力等である。サミエルウルマンも、歳をとるとは「体」の衰えということではなく、「心」が若ければいつまでも青春は続くし、志を持って技を積み重ねていけると言っている。ならば、社会の「心」にあたる部分とは何を指すのであろうか。それは、人と人との繋がり、つまり絆であり、

個々人と社会との関わりから得られる人としての満足度であると筆者は考える。安全・安心社会とは、社会の「体」と「技」の部分を強化・進化させるだけでなく、「心」の部分をよく見つめ直し、いかにして個々人とその集合体であるコミュニティーをより良くしていくのかを一人ひとりが考え、社会の総和にしていくことだと考える。これがなくては、安心社会とは言えないのではないだろうか。

2018年は、激甚災害が多発した年である。そしてこれは、世界中の傾向であるとも言え、こういった想定外外力に対する対応は、もちろん社会の「体」「技」の部分の強化は必要であるが、同時に「心」、社会のあり方により、ハードの被害はあったが最後の砦である人の命が助かった事例も多くある。例えば、岡山のアルミ工場の浸水、水蒸気爆発は周辺の住宅に多大な被害をもたらしたが、幸い住民の死亡には繋がらなかった。これは、住民たちの連絡網や訓練のおかげで、速やかな避難がなされたからだと聞く。このように人の繋がりを生かして身を守る行動と意識があって初めて、安全・安心社会の「心」「技」「体」の和が完結する。

心が一番上にある。一人ひとりが安全に心を配り、社会の繋がりによって自分と社会の命を守ることに自助していくことが、安心社会をつくりあげるには大切である。これから高齢者中心のコミュニティーだからこそ必要な条件と言える。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村 昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川 輝 繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福 富 洋 志 横浜国立大学名誉教授
放送大学神奈川学習センター所長
常務理事 若 倉 正 英 (国研)産業技術総合研究所客員研究員
(特非)保安力向上センター センター長

理事 高木 伸 夫 (有)システム安全研究所所長
理事 三宅 淳 巳 横浜国立大学先端科学高等研究院
副高等研究院長・教授
理事 安原 洋 東京大学医学部付属病院教授
理事 谷 質 生 日油技研工業株式会社
川越工場 第2製造部 部長
監事 田中 保 正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事
監事 向 殿 政 男 明治大学名誉教授